

図書館 だより

図書館 ☎69・3706

今の特集 「手帳・日記」の本

新しい一年がはじまり、手帳や日記を新調したという人も多いはず。そこで今月は手帳や日記に関連する本を紹介します。



『図解「超」手帳法』

野口悠紀雄/監修 講談社
新時代の手帳の使い方をわかりやすく図解で解説。時間管理の秘密が詰まった1冊です。



『自分を予約する手帳術』

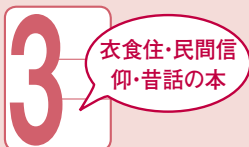
佐々木かをり/著 ダイヤモンド社
手帳を活用した時間管理のステップや手帳選びのポイントなどを紹介。



『百歳日記』

まどみちお/著 日本放送出版協会
詩人まどみちおが、身近の小さな発見を書きとめたノート。詩17篇も収載。

分類特集は 「38」：民俗学



『宮本常一歳時習俗事典』

宮本常一/著 田村善次郎/編 八坂書房
消えゆく日本文化を知ることができる、四季折々の歳時習俗事典。



『くいもの 食の語源と博物誌』

小林 祥次郎/著 勉誠出版
天麩羅、鮓、餃子、ハヤシライスなど、身近な「くいもの」の語源や歴史を掲載。日本人の知恵と感性を味わう。



『水木しげるの妖怪地図』

別冊太陽 荒俣 宏/監修 平凡社
日本各地に多数棲息する個性的な妖怪たちを、水木妖怪画と地図を交えて解説する。

冠婚葬祭やマナーに関する本もこちらにあります。

「魚のオス・メス」

■悲しい事実

ドジョウを飼っている知人と話をした。聞くと、飼いはじめて5年以上も経っていて病気にもなったことはなく、性格は少し荒いが元気。
ドジョウの寿命は野生では通常2年ほどと言われ、飼育下で5年生きるのはいすごい。名前をドジョウの「ドジョジ」といい、男の子だという。ただ、種類がわからないので、何ドジョウなのか知りた

いということ、ドジョジ君の写真付きメールをケータイに送ってもらった。

写真を見ると、体の模様からシマドジョウだとわかった。立派なドジョウでしたが、種類の他にもう一つ判明してしまったことがあった。実はメスだったのだ。男の子と思って知人はドジョジと名前を付けて5年以上飼っていたのだ。
ドジョウの性別は胸ビレを見るのとわかり、オスはとががっていて、メスは幅広く丸っこい。しまった。



水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館
☎68・2059

職業柄気付かなくていいことに気付いてしまった。この事実を知らせるべきかどうか。

■ドジョジ改名

どうしようか迷ったけれど、ドジョジはメスだよ、ということも告げてみた。知人は、ドジョジは性格も強いし体も昔から太かったから5年もの間オスだと思っていたので、動揺してメスという事実を簡単に受け入れられない様子だったが、しばらくして「改名します。ドジョジ改め、ド譲ジにしました。」とメールが来ました。苦渋の改名。ド譲ジはメスとして新たな人生を歩み始めた。
雌雄判断
魚には、ドジョウのようにオスメスの判別が付くものも多くいます

が、ほとんどはタイやヒラメのように見た目ではオスメスの判断ができないものがほとんどです。判別できる種類では、ヒレの形や体の色や模様(ほとんどオスのほうがキレイ)、体の形でわかります。人間のようにメスはオスよりも丸っこくてふっくらしている、という違いもあります。このような違いから、水族館ではオスメスを判断して1つの水槽へ同居させて繁殖を狙うのですが、魚の世界にも相性があるらしく、彼らなりにハンサムや美人がわかるのか、うまくカップルにならないことが多いです。また、一旦うまくいったのにケンカして夫婦決裂ということもあるし、驚くべきことに浮気することもあるかもしれません。